

* テレホンカードの国立天文台に関係したものの収集

アーカイブ室新聞 304号に「国立天文台（東京天文台、緯度観測所）が登場する小説などの収集」という記事、305号に「国立天文台（東京天文台、緯度観測所）が登場する記念切手などの収集」という記事を書いた。2008年4月に天文情報センターにアーカイブ室を立ち上げ、国立天文台に限らず、残っている天文学に関する歴史的に貴重な観測装置、測定装置、写真乾板、映像記録、その他あらゆる天文学に関係した資料の収集を進めている。そんな活動を続けていたところ、観山正見国立天文台長からアーカイブ室長に「国立天文台（東京天文台、緯度観測所）に関係した記念切手」、「国立天文台（東京天文台、緯度観測所）が登場する小説」を収集しろというご下命があった。そこで304号、305号の記事になったのであるが、さっそく、天文情報センター出版係の山下芳子氏から「岡山天体物理観測所開所記念切手1枚」が提供された。そして同時に写真1の岡山天体物理観測所のドームがデザインされたテレホンカードが収蔵品にしてはどうかと提供された。

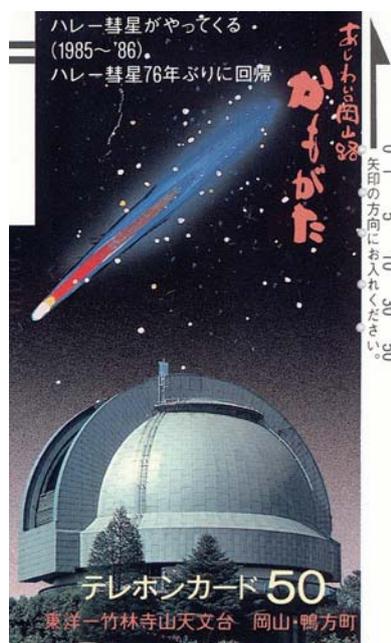


写真1

テレホンカード自体が今は珍しい存在になった。携帯電話が普及し、公衆電話がどんどん撤去される時代になり、テレホンカードが不要になってしまったのである。テレホンカードは小銭の代わりに公衆電話を利用するときに重宝したものであるが、今ではほとんど利用されない。筆者の財布にも2~3枚のテレホンカードが入っているが、もう長いこと使っていない。

ハワイに建設した大型光学赤外線望遠鏡の愛称を募集し、採用された「すばる」を投票した方々に記念のテレフォンカードを配布した。この愛称募集、集計、当選者の確定、テレフォンカード作成などに携わったのが筆者であった。その事情については「大型望遠鏡室新聞（通称：中桐新聞）36号（1991年11月11日発行）」に記事がある（写真2）。

（これは国立天文台・すばるプロジェクト室の内部情報です。取扱いは十分に注意して下さい。）

No. 36

国立天文台・光学赤外線天文学研究系		大型望遠鏡室新聞		1991年11月11日（編集発行責任：中桐正夫）	
すばるプロジェクト室定例会記録 （11月11日（月）9:30-11:40、場所：209室） 出席者：小平、海部、唐牛、佐藤、家、林、山下(T)、野口、中桐、宮下、三上、鳥居、沖田、劉、田辺、上野 ◎報告および議論：				配布先 小平 海部 成相 唐牛 佐藤 安藤 家 山下T 林 野口 中桐 宮下 沖田 鳥居 三上 太田 能丸 上野 田中W 田辺 田中M 高遠	
1) 概算要求見直しに関連した線表作成にかかる問題点（唐牛）：先週、概算要求見直しに関連した線表を作成したが、無理な先送り等があり、第3鏡製作が途中で途切れるなど多少の矛盾と無理なスケジュールになっているところがある。他にも気のつくところがあれば、唐牛、野口、熾きた、宮下のだれかまで知らせて欲しい。（線表配布）。また、この線表でどの国債に対応するかを表示することとした。					
2) ハワイ・ユニオン・コントラス報告（小平）：報告書参照のこと。主な点は、ハワイ大学では、三菱をメインコントラクターとして紹介し、契約システムを説明し、OSDAがほぼ成案に達した（11/27のJNLT委員会で要点の approve をお願いする）、UH88の観測について運営経費（1晩：50万円）の分担を要求されている。コンストラクション・山頂の power & communication loop 等についても三菱が我々と連絡をとりながらUHと交渉する。ユニオンでは、すばるプロジェクトチーム全員が出席して契約発効に伴う出発式があり、ユニオンのプロジェクト体制がしっかりしているとの印象をもった。今までに87-#ができており、テラットをもらった。記念の MAG を作ったので希望数を聞かれている。また社長手製の STUBEN GLASS の特製 GALAXY を贈られた。コントラスでは、まもなく三菱のシステム・コントラクターとして契約するので意欲的であった。研磨工程に R. Smith に加えて、Dr. Jones が加わり体制が強化された。ツパソンの施設は8.3mになったために大規模な設計変更になり、開組、反転等は坑口の仮設小屋で行うことになった。ゾーンプレートテストについて本田先生の協力を希望しているように思われる。輸送についてはコンチ、ワトソン・ワットソン、ワットソン・マウカアも担当したい。これに対し、コンチの設計について天文台も加わるべきだと意見があった。また、ユニオン、コントラス双方とも映像記録を作成するがすばる側に協力して統一されたスタンダードにする用意あり。					
3) 11/6: 岡山赤外線観測ワークショップ報告（山下(T)）：1) 岡山の気象条件、2) 観測装置の光学系、全体の形状、3) アイジンギョウシステムなどについて議論した。					
4) 11/7: 第11回能動支持検討会(家)：資料配布。62cmテスト鏡実験で問題になっている点を整理し、宿題の分担を決めた。					
5) すばるテレフォンカード（中桐）：色校正に手間取ったため、納入が11/13に遅れた。総数が2,400枚になった。すばるプロジェクト室メンバーは800円、その他天文台職員は700円、一般公開では650円で販売する。すばる室メンバーに名称当選者、プロジェクト室来客用分の負担をお願いした。					
6) 11/8: 浜松赤外線補償光学共同研究（家）：資料配布：大気によるレイレー散乱によるレーザー星実験の報告があり、その有効性について議論があった。					
7) 11/27: すばる委員会（海部）：資料配布、議事内容として1) すばる望遠鏡計画の状況について（報告と議論）、4) すばるプロジェクト室の発足と体制（唐牛）、5) 技術進展（トーマス関係：安藤、光学系：成相、制御系：田中W、計算機関係：市川S）、6) 建設の進行状況（主鏡関係：安藤、山頂工事：宮下、OSDA：小平）、7) 海外の状況（ESO, GEMINI：小平）、8) 概算要求の状況と今後の計画の見直し（唐牛）、9) 観測装置開発の見直しについて、4) 観測装置ワークショップの中間的まとめ（舞原）、5) 予算と開発体制（海部）、6) すばるの建設と運用の体制について、7) すばるの人事の状況（小平）、8) 今後必要な人員と長期的にみた建設体制、9) 完成後の運用について（岡村）、4) その他					
8) すばる通信（林）：資料配布、すばる通信に対する反響がたくさん来ているとの報告があり、紙での配布が大量になっているので、この合理化について唐牛、中桐が技術会の資料の配布の減量の調整することになった。また、すばる通信では図・絵が送れない。紙ではそれらを入れておもしろいものにしたので、ニュースを集める人、書く人を募集したいとの発言に対し、関係者で相談させてもらうとの室長発言があった。E-Mail 受信者が関東に集中しているとの指摘があり、光天連、宇電懇でも宣伝することになった。					
9) 技術会資料発送の打ち切り方、請求レートの確立について：発送事務の合理化で資料配布が減る分に対する手当として、資料配布方法の変更通知の徹底と資料請求先を技術会資料係宛とすることにした。校閲の簡素化がはかれないかの意見があった。					
<h3>すばるテレフォンカード図案決まる</h3>					
				これは海部さんのところに来ているパートの奥村さんのデザインによるものです。いよいよ、今日11月13日に納入される予定です。 頒布価格： すばるプロジェクト室メンバー：800円、 その他天文台職員：700円	
.....裏面に続く.....					

写真2 すばるテレフォンカード図案が決った記事

この「すばるテレフォンカード」は何千枚か作り、愛称の当選者に配布する分の費用をねん出するために、いくらか高く買っていたことを記憶している。

今すぐには、「すばるテレフォンカード」は手元にないので紹介できないが、自宅には保管してあるはずなので、稿を改めて紹介しよう。

天文台が登場する文学作品、記念切手などの収集を始めたら、すぐに反響があり、テレフォンカードも収集したらという意見が出てきた。筆者も賛成なので出来るだけ収集してみようと思う。読者の中に心当たりのある方は情報をお寄せいただければありがたい。